

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年2月13日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690300092
法人名	医療法人 恒心会
事業所名	グループホーム イーストサイドおぐら
所在地	鹿児島県 鹿屋市 笠之原町29番39-1号 (電話) 0994-41-7420
自己評価作成日	平成26年2月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿屋市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は法人母体が病院であることもあり、定期的に訪問診察を始め、緊急時の場合において連携を図るようにしています。昨年に引き続き看取り介護が行える環境づくりや日々の生活の中において健康管理に努めております。年間を通して入院される方もいらっしゃいましたが、どの方も1～2週間程度で大きな身体機能への変化が見られることなく退院出来ており慣れ親しんだ生活環境の中での生活が継続できています。利用者様やご家族のご意向に応じ当事業所において可能な限りご利用できるよう、今後共取り組んで参りたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、鹿屋市役所、学校、商業地域に隣接し協力医療機関でもある母体の病院、リハビリ施設、地域包括支援センターなども徒歩で行ける位置にある。平成19年12月に壱番館を開設、その1年後に弐番館もオープンして現在に至っており、各ユニットの交流も積極的におこなっている。また、同敷地には小規模多機能ホームもあり共に地域に根ざした在宅介護を支援している。ひとり一人の個性の尊重、家庭的で豊かな人間関係を保ち支え合える生活、本人の持てる力を発揮できる生活や役割が果せる生活の実現、地域住民、地域社会と関わりのある生活、行政機関や保健・医療・福祉サービス機関との連携に努め生活やケアを提供するといった理念を職員全員で共有し、実践している。また、内部や外部への研修体系の構築を図り職員教育にも法人全体で取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念・基本方針をネームケースに入れ、いつでも見ることができるようにしている。月曜日の全体朝礼時、理念を唱和し日々のケアに取り組んでいる。	その人らしく、慣れ親しんだ地域の中での穏やかな暮らしの実現を支援するための理念を掲げ、玄関やスタッフルームに掲示し週1回全体朝礼時に唱和して共有し理解している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族・知人の面会あり。近所周辺を散歩したりと可能な限り地域の方との挨拶を交わしたりしている。	事業所は、新興地域に位置しているが近隣を散歩がてら住民の方と挨拶などで交流をしている。町内会から広報誌を配布してもらいホームに掲示して情報を共有している。また、ボランティアや職場体験、実習生の受け入れをしている。職員は、「認知症予防」の講師として地域で講演活動へも参加している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	法人主催にて介護職員初任者研修の講師及び現場実習受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に運営推進会議を開催し、ホーム内の活動や利用状況を報告し、意見や感想、提案等を聞き運営に取り組んでいる。昨年度の反省をもとに新たに看護師等の委員を増やし、専門職からの意見を頂けるようになった。	運営推進会議のメンバーは、看護職を増員することで充実を図り、医療面の情報提供、専門的な意見をもらい、サービス向上に活かしている。2カ月に1回開催の会議では、活動報告、外部評価結果の報告、避難訓練のアンケートの報告などおこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	鹿屋市とは運営推進会議を通し事業所の取り組みなど報告が来ている。市からも様々な情報等をメール等で頂く等し、日々連携を図っている。事故発生においても随時報告している。	日頃から市職員とは、メールや電話で連絡を取り合い相談や情報収集、指導や助言を受けている。また、運営推進会議にも積極的な参加があり、折々の状況報告や情報提供を受けるなど協力体制がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で勉強会を実施し職員の共通理解に努めている。ホーム内に身体拘束廃止委員会を設置し、毎月1回は話し合いの場を設け、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	ホーム内での定例の勉強会で職員の意識や共通認識を図り、身体拘束委員会を設置し、正しく理解を深め日々のケアの場面で確認しながらそれぞれの職員が身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で勉強会を実施し職員の共通理解に努めている。ホーム内に高齢者虐待防止委員会を設けているがなかなか意見が出難い状況がある。小さな気づきを表出する為、無記名で職員からの意見箱を設置し、意見の収集に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度はホーム内で権利擁護に関する勉強会を計画しているが、今のところ未実施である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に利用約款、重要事項説明書等を用いて、契約の締結、解約についての説明を行い、同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の意見が頂けるよう意見箱を玄関に設置しているが、投函は今のところみられない。面会時等を通して家族からの意見を聞き、それをもとにユニットミーティングで議題に挙げ、話し合いし、対応を行っている。</p>	<p>家族には面会時直接意見を拝聴したり、遠方の家族には手紙や電話など利用して情報交換している。さらにユニットごとの家族からの要望や意見をミーティングで話し合い、結果は運営推進会議で報告しメンバーからの意見も参考にしてより良いサービスにつながるよう努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、全体ミーティング・ユニットミーティングを実施し職員の意見等を出し合い話し合う場を設けている。</p>	<p>昨年から、「スタッフ専用意見箱」を設け1か月に1回開封して担当職員から管理者経由で意見内容を提示して業務改善や処遇に関して見直しなどしている。管理者は、年1回職員全員に個別面談を実施しており職員も自分の意見や提案を表現できる機会に満足している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>壺番館に関しては今年度より1日の職員出勤者を1名減らしているが、職員みんなで協力をし向上心をもち働けるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新入職者にはプリセプターを配置し指導等を行っている。職員には外部研修計画を提示し、年に最低1回以上の研修参加を勧めている。介護職を対象とし、現任研修への参加を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅地区介護事業所連絡協議会へ加入、協議会主催の研修（認知症セミナー等）への参加を通して交流が図れている。また三井メディックスの担当者よりオムツに関する勉強会を開催して頂いた。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族の方から利用者に関する情報、意向などを聞き利用開始にあたり各担当職員を決め本人の思いに耳を傾けながら1日も早く生活に慣れて頂けるように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>見学等を行い、様々な情報や意向を聞いている。入居以降、担当職員から家族へ状態報告等を行っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス利用意向を伺う中で、当ホームに限らず、必要あれば他の介護サービス等についても説明を行うようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員の考えだけでなく、利用者と一緒に生活をしているという気持ちを忘れず、利用者と一緒にコミュニケーションを取る様に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会などで来られた際は快く出迎え利用者の生活状況など情報提供を行なっている利用者との関係その時その場面に配慮しながら必要に応じた対応を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普通の会話の中から利用者の思いや要望を聞き出し 又家族と情報交換をし可能な限り計画を立て実施している	利用者は年々重度化しており、移動も車いす対象者が増えてきている。ホームは馴染みの人や場所への関係性を継続していくため少人数の個別ケア計画を実践し外出の機会を作っている。また、家族との絆が途切れることがないように外出、外泊を勧め	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者と席を近くにしたり行事（イベント）を計画又、日々のレクリエーションを実施し利用者が互いに交流を図れるよう取り組んでいる。職員も一緒に関わりを持ちながら関係作りに取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ここ一年退居希望者はいないが、今後事例が発生した場合は利用約款に基づき、必要に応じた相談支援に努めていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自ら意向を伝えられる利用者については会話を通して把握を行っている。伝えることが出来ない利用者には日々の関わりの中で、又家族から情報を聞き取り利用者本位のケアになるよう努めている。	ケアする中で本人の言葉やしぐさ、表情、行動などを把握することで本人の思いや希望に寄りそうようケアをしている。また、職員はミーティングやカンファレンスをおこない情報を共有することでサービスの統一性を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人一人の生活歴を日々の会話の中で聞き、家族からも情報収集を行っている。新たな情報があれば追記し把握に努めている。又本人の意向に沿ったケアを行えるよう職員間で情報共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者と接していく中で本人の出来ることや生活習慣を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に利用者、家族と話し合いをする機会を設け、意見を頂いている。また職員からの意見も踏まえ計画の作成及びケア内容を変更し対応している。	個別の利用者担当が割り振られており、担当職員ほかスタッフ、計画作成担当者は、アセスメント、介護計画書作成、モニタリング、ケアの実践（見直し）のサイクルにより本人本位の自立支援に向けケアしている。また、担当者会議には利用者、家族を始め関係職員が参加して活発な意見交換をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態変化等があれば職員間で意見等を出し互いに情報共有をしながらケアを行い記録をしている。その記録をもとにモニタリングを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて協力医療機関を通じて相談、アドバイスを頂きケアに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生の職場体験学習の受け入れや介護職員初任者研修の現場実習の受け入れを行っている。また介護支援ボランティア事業の受け入れを行っているが、今のところ受け入れ実績はない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診においてはスタッフの付き添い・介助にて対応している。毎月1回定期的に訪問診察を実施し、ホーム内で診察を受けられる体制を整えている。	初回の受診時は必ず家族同伴を依頼し、他科受診は職員が同行するなど支援はしているが必要に応じて家族の同席をお願いしている。看取り対象の利用者もおおり訪問看護をうけ、月1回は、訪問診療で状態把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携先である訪問看護ステーションことぶきと契約し看護師へ定期的に情報提供を行ない、必要時の相談や緊急時対応の協力、看取り介護などへの協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は情報提供書を作成し入院先の医療機関へ情報提供を行っている。状態確認の為面会を行い看護師や医療相談員より情報を頂き状態把握に努めている。退院時は医療相談員と連絡を取りながら受け入れ調整等を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族に対し入居時に書面にて方針を説明、緊急時の場合も含めた意思確認の同意を得ている。	利用者や家族には、入所時に「緊急時等における意思確認・同意書」にてホームの方針を説明のうえ、同意を得ているが状態の変化に伴いその都度上記書面にて意思確認をしている。そのため状況の変化が書面で確認できる。看取り実践中であるが、家族や職員、訪問看護師が毎日訪問するなどチームケアをおこなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、心肺蘇生法並びにAED操作についていつでも練習が出来るように物品は法人で揃えてある。今年度は全職員対象で勉強会を2回実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を職員及び利用者にも参加して頂き実施している。昨年の反省を踏まえ、地域の消防分団に参加協力を頂き、訓練を実施していく予定である。</p>	<p>居室入口には、避難時確認のための目印を工夫し非常口までの移動経路も整備されている。地域は新興住宅地で地域との協力体制は薄いですが、町内会を通じて消防訓練実施の声かけをし、地元消防団に入っている職員もいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴・排泄時の羞恥心への対応等プライバシーに配慮してケアに取り組んでいる。言葉遣いにおいては常に注意を払い必要であれば職員同士で互いに注意し合う様に心がけている。	トイレは、扉の内側にカーテンも設置し羞恥心への配慮もするとともに安全面も考えケアしている。排泄や入浴、更衣など誘導の声かけは個別に本人に合った対応をしている。職員は適切な言葉使いやケアに取り組み必要に応じ職員同士も注意するよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者より希望等があれば耳を傾け必要に応じて対応を行っている。利用者自ら訴えが出来ない方もいるので声かけをしながら意思確認を行うよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制することなく一人一人の生活のリズムに合わせて必要に応じたケアに努めている。家事等出来ることを一緒に行うことでやりがいを持ってもらえるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洋服の汚れなど見られたらその都度交換し清潔を保つようにしている。散髪は希望に応じて散髪出張サービスを利用し事業所内で実施している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は管理栄養士にて行い委託業者にておかずを調理している。ホームではご飯やお粥、おかずの盛付けと利用者に合わせて食べやすいように加工をしている。	イベント時各ユニットごとに行事食（手打ち蕎麦、バイキングなど）、外食もしている。おやつ作りもあり、下膳など手伝える利用者もある。食事介助がユニットそれぞれ利用者の約半数を占めているが、食事が本人のペースで楽しめるようケアしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立に基づき利用者一人一人の栄養バランスに配慮した食事を提供している。食事・水分量を記録するとともに摂取量の少ない方へ必要に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施、利用者の状態に応じて出来る限り自ら行って頂いている。困難な利用者へは介助にて口腔内清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期のトイレ誘導を実施。利用者から排泄の訴えがある時も随時行っている。日中トイレ使用の方は極力オムツに頼らず綿パンツを使用している。	排泄パターンを把握し、日中はトイレで排泄、夜間は適宜オムツ交換や誘導をするなどケアしている。尿意・便意がない方には、さりげなく声かけトイレ誘導し、便秘気味の方などにはオリゴ糖を食事に取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日便が出ていない日をカウントし状態把握を行っている。便秘予防対応として水分摂取の促しや腹部マッサージを実施している。医師からも内服薬の処方をして頂く等、対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者自身希望が無い場合、週3回入浴の支援を行っている。拒否が見られる方には無理強いつせず利用者の状態に合わせて対応をしている。	週3回決まった曜日にこだわらず必要に応じて曜日や時間を変えて入浴の支援をおこなっている。入浴拒否がある方には、家族が面会に来られた時家族を通じて入浴の声かけを依頼し本人に安心感や意欲を持たせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声かけを行い、昼食後は利用者によって居室のベッドに休んだり。ソファでくつろいで頂いている。就寝時は本人が安心して休めるように声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書を確認し、不明点等相談がある場合は主治医又は薬剤師に連絡を取り確認をしている。薬の内容、副作用、容量用法については介護システムを活用し、職員間で把握するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を把握し、その方の好きな事や外出時の支援など行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い時は利用者の体調に合わせて散歩や買い物に出かけている。又本人の意向を把握し外出や外泊が出来ることを家族に伝え希望に合わせて外出外泊の支援を行っている。	天候が良い時は、ホームの庭先で、日光浴を楽しんだり、近隣を散歩したりする。また、定期受診時、ドライブしたり店で買い物を楽しむなど支援している。本人、家族、職員とで墓参りを計画している利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	利用者家族の意向にて現金預かりを行っている。必要に応じて支払いを行ない、個々に出納管理を行っている。随時家族にも確認をし頂いている。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	電話で家族と会話をしたいと希望される方には、自由に電話にて話をして頂いている。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	楽しくお話のしやすい場所、貼り絵など季節に合わせた空間を作っている。	玄関には、施設の理念や町内会広報など掲示されている。リビング兼食堂、廊下、居室ともに明るく、掃除も行き届き、心地よい生活感に包まれている。使い勝手よく工夫され死角防止のため、ミラーも設置されている。リビングの壁には、利用者の作品などで季節感漂うレイアウトが視覚を楽しませている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	座席を配慮し、話を好まれる方同士やテレビを好まれる方同士で楽しく過ごせるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの物の持込が出来ることを説明している。使い慣れた枕や布団、懐かしい写真を飾るなどし快適に生活できるよう努めている。</p>	<p>居室には、特殊寝台、整理タンス、クローゼット、エアコンが常設しており、寒暖計で温度管理している。全室フローリング仕立てであるが、希望に応じて畳に変更できる。ポスターや家族写真を貼り、個性が漂う本人自身が居心地よい空間作りになっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各部屋の箇所（トイレや浴室等）に分かりやすくなるよう貼紙にて表示している。整理整頓、掃除を行い安全安心に生活できる環境を整えるよう日々取り組んでいる</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
		○	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない